

## 安全安心と住み続けたいまちづくりの推進

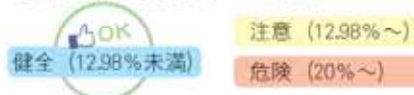
津波避難ビルの完成や津波避難タワーの建設、防災公園整備の着手など「地震津波対策」を実施しました。また、市民の皆さんと協働で策定した「第2次総合計画」を積極的に推進しました。

問い合わせ 財政課 藤永 ☎0054

## 市の財政状況は健全です

平成27年度決算状況からみる市の財政状況は健全です。夕張市の財政破綻により、国では自治体の財政状況把握のための指標を設け、その指標に合わせ毎年、財政の健全性を確認しています。その状況を見てみましょう。

### ① 実質赤字比率 黒字



普通会計（一般会計と土地取得特別会計の計）の赤字の程度を示す比率で、財政運営の悪化の度合いを示します。牧之原市は、収入総額が支出総額を上回っているため、黒字となり、赤字ではありません。

### ② 連結実質赤字比率 黒字



牧之原市のすべての会計を合計した収支の赤字比率です。①の実質赤字比率と同様に、特別会計や水道事業会計を加えても黒字の運営をしていますので、赤字ではありません。

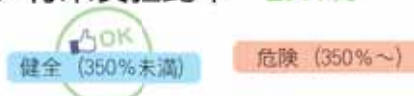
### ③ 実質公債費比率 11.8%



市（一部事務組合等を含む）の借金の返済額の大きさを示す指標で、この比率が高いほど返済負担が大きくなります。借金をするために県の許可が必要となる基準18%を平成25年度に下回り、今年度はさらに減少しました。今後も比率は減少していく予定です。県下の平均値（7.1%）を目指して計画的な事業執行と財政運営に努めていきます。



### ④ 将来負担比率 27.4%



借金返済や将来も支払わなければならない負担金などの残高を指標化したものです。この比率が高いほど、将来、財政が圧迫される可能性が高いことになります。

### ⑤ 資金不足比率 黒字



事業会計の料金収入に対する資金不足（赤字額）の比率で、経営状況の深刻度を示します。市の水道事業と農業集落排水事業については、資金不足はありません。

水道事業会計（企業会計）

区分	収入	支出
収益的収支	10億6,352万円	10億817万円
資本的収支	3億3,606万円	5億9,237万円

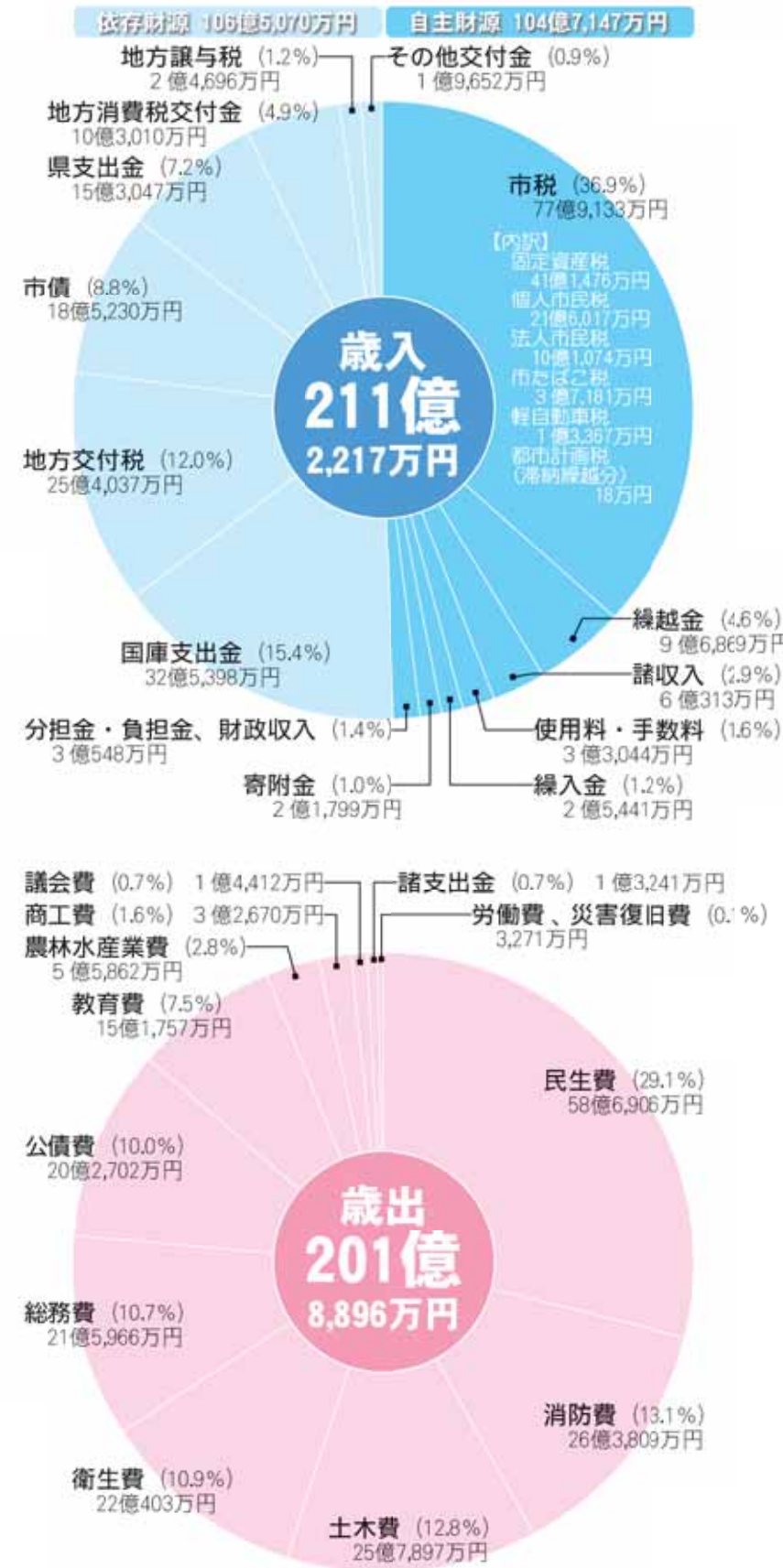
収益的収支…水道事業を運営するための収支を表したもの  
資本的収支…配水池の建設や管路の整備など、資産の整備と企業債償還などの支出、その財源となる収入の収支を表したもの

水道事業会計（企業会計）は、地方公営企業法に基づき設けた水道事業を行う特別会計で、民間企業と同様の経理や決算を行います。

特別会計

特別会計名	収入	支出
国民健康保険	64億7,819万円	61億992万円
後期高齢者医療	4億1,236万円	4億1,159万円
介護保険	42億327万円	40億2,687万円
土地取得	1億3,248万円	1億3,248万円
農業集落排水事業	1,227万円	1,158万円

特別会計は、市が特定の事業を行うために、一般会計と区別して設けるもので、特別会計ごとに決算を行います。



**歳入（収入）**  
平成27年度一般会計の歳入は211億2,217万円（前年度比107.8%）となりました。歳入の約4割を占める市税のうち、法人市民税は、税率

（12.3%↓9.7%）変更や新興国経済の景気減速の影響などから、また、固定資産税についても、3年に一度の評価替えなどにより減額となり、市税全体でも前年度を下回る決算額になりました。一方で、消費税率が8%に引き上げられた影響が平年化されたことによる地方消費税交付金や津波防災まちづくり事業、道路新設事業に係る国

**歳出（支出）**  
歳出は、201億8,896万円（前年度比108.4%）となりました。子ども医療費の無料化や子育て支援連携システム（まきはく）の導入、市内2カ所目

となる認定子ども園建設に対する補助など子育て世帯への支援、プレミアム商品券の発行、市道壱丁田北線や津波避難ビル、津波避難タワー2基の整備などにより、前年度に比べ大幅な増額となりました。今後も限られた財源を最大限有効活用するとともに、事業の選択と集中により、誰もが住み続けたいまちづくりを推進していきます。